

外為マンズレビューⅢ 南半球編

先月までの為替相場のレビューと、今後の注目の経済指標やイベントを元に、為替相場の展望をお届けします。

2015/06/01

各国の金融政策に温度差

通貨ペア	基調		ページ数
豪ドル/円	↓	くすぶる追加利下げ観測 予想レンジ: 91.200 ~ 97.300 円	2 - 3
NZドル/円	↓	利下げ観測が浮上 予想レンジ: 84.800 ~ 90.000 円	4 - 5
ランド/円	↑	利上げ観測が浮上 予想レンジ: 9.800 ~ 10.700 円	6 - 7

※通貨ペアをクリックすると、そのページにジャンプします



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

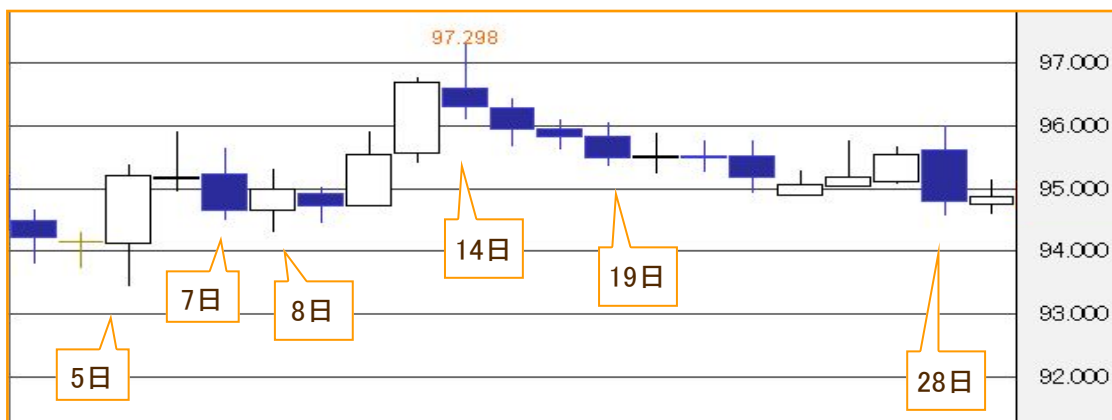
Copyright©2015 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

豪ドル/円 5月の推移

AUD/JPY

5月の豪ドル/円相場は93.474～97.298円のレンジで推移。月間の終値ベースでは約0.6%の小幅上昇(豪ドル高・円安)となった。

月前半は事前予想通り豪準備銀行(RBA)が利下げを実施するも、声明で利下げ打ち止め観測が広がったことから豪ドル/円は上昇。主要国での株高や、豪ドル/円相場での200日移動平均線突破なども追い風に、14日に1月以来となる97.298円の高値を記録した。その後は米年内利上げ観測が再浮上した事による豪ドル/米ドル相場の下落と、ドル/円相場での年初来高値更新による上値余地拡大の動きに挟まれて豪ドル/円は95円台で身動きの取れない展開が続いたが、29日の豪経済指標の下振れが重石となり、95円を割り込んで月の取引を終えた。



四本値

OPEN	94.498
HIGH	97.298
LOW	93.474
CLOSE	94.885

5日	豪準備銀行(RBA)が事前の予想通り、政策金利を0.25%引き下げて過去最低の2.00%とした事を受け、豪ドル/円は93.474円まで下落。しかし、声明文で前月の「今後のある時点で追加緩和が適切となる可能性がある」との文言が削除された事を受け、市場でRBAの利下げ打ち止め観測が広がると反発。原油相場の堅調推移も追い風となり、95.389円まで上昇となった。
7日	豪4月雇用統計は失業率6.2%、新規雇用者数は0.29万人減、労働参加率は64.8%(予想:6.2%、0.4万人増、64.8%)となった。雇用者数の予想外の減少を受けて初動の豪ドル/円は94.623円まで下落するも、前月の雇用者数が大きく上方修正(3.77万人増→4.81万人増)されていた事などを好感して、95.639円まで反発した。ただ、その後は原油相場の下げを嫌気して94.513円まで再び下落した。
8日	RBA四半期金融政策報告で、GDP見通しについて15年が+2.5%、16年は+2.75～3.75%と2月時点(2.25～3.25%、3～4%)より下方修正した。基調インフレ率について15年が2.5%、16年は1.75～2.75%(同:いずれも2～3%)とした。また、「豪経済、予想より若干長期間トレンドを下回る見通し、2016-17年度に上向きへ」「経済成長とインフレの見通しを評価して必要なら政策を調整」「豪ドルは経済を十分に支援しておらず、一段の下落が予想されるし、必要」などの見方を示した。豪ドル/円は一時94.30円台まで下押しした。
14日	予想を大きく上回ったNZ1-3月小売売上高指数を受けてNZドル/円が上昇する中、同じオセアニア通貨の豪ドル/円も強含み、1月20日以来となる97.298円まで上昇。ただ、買いの勢いが一服すると利益確定の売りに押されて反落した。
19日	RBA理事会の議事録が発表され、「メンバーは5月か6月に利下げの可能性がある」と認識。「ガイダンスの欠如は将来の金利変更の余地を制限しない」「さらなる豪ドル安の可能性があり、それは必要」「中国の不動産市場の低迷は豪州経済の拡大を促してきた資源需要にとって重大なリスク」「成長が加速するまでより長い時間を要する見通し、失業率はより後期にわたって高止まりする可能性が高い」などとあった。当面の金利据え置き観測が広がっていた中で、豪ドルの先安感を示した他、中国のリスクが指摘されていた事などを受けて、豪ドル/円は一時95.40円台まで値を下げた。
28日	豪1-3月期民間設備投資が前期比-4.4%と市場予想(-2.2%)を大きく下回ると、豪ドル/円は急落。この流れは欧米市場に入っても続き、94.582円まで一段安となった。

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

AUD/JPY

日経平均

OPEN	19510.85
HIGH	20655.33
LOW	19257.85
CLOSE	20563.15

NYダウ平均

OPEN	17859.27
HIGH	18351.36
LOW	17733.12
CLOSE	18010.68

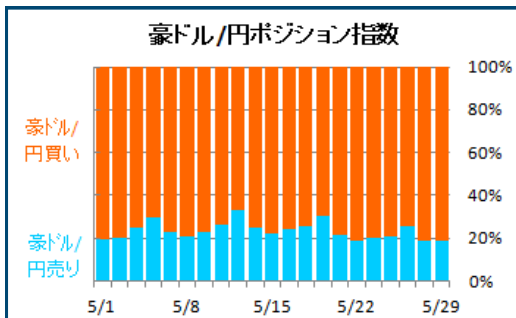
上海総合指数

OPEN	4441.343
HIGH	4986.503
LOW	4099.042
CLOSE	4611.744

豪10年債利回

OPEN	2.6340%
HIGH	3.0440%
LOW	2.6320%
CLOSE	2.7300%

5月のポジション動向



6月の注目ポイント

[月間指標カレンダー\(外部リンク\)](#)

- ・RBAキャッシュターゲット(2日)
- ・豪1-3月期GDP(3日)
- ・豪4月貿易収支(4日)
- ・豪4月小売売上高(4日)
- ・米5月雇用統計(5日)
- ・中国5月貿易収支(8日)
- ・豪5月雇用統計(11日)
- ・RBA議事録(16日)
- ・米5月消費者物価指数(18日)
- ・日銀金融政策決定会合(18~19日)
- ・中国6月HSBC製造業PMI・速報(23日)
- ・主要国株価、国際商品市況

6月の見通し

5月のRBA理事会での声明文により利下げ打ち止め感が台頭するも、その後に発表されたRBA四半期金融政策報告は、追加利下げの可能性を否定する内容ではなかった。今月2日のRBA理事会では、先月利下げた直後のため、今月追加利下げに踏み切る可能性は低い。ただ、豪1-3月期民間設備投資が予想を大きく下回った事もあり、RBAの追加利下げ観測がくすぶっている。今月豪州で発表される1-3月期GDPや豪5月雇用統計が相次いで予想より弱い結果となるようだと、追加利下げ観測が高まって豪ドル/円は下値を試す可能性がある。RBAが金融政策についての見通しを示した直後の為、直ぐにRBAが利上げに舵を切るとは考えにくく、当面は追加利下げ観測に結びつかという視点で各種経済指標を確認してゆきたい。

テクニカル面では、前月の月足チャートに上ヒゲの長い足形をつけた事で、目先の天井を付けた可能性がある。仮に上伸が上ヒゲに届かないようならば、来月以降は下値を試す展開に傾く可能性が高まると見る。今月どのような足形で終えるか注目したい。

また、今月は米連邦公開市場委員会(FOMC)が予定されている。声明で年内の利上げ前倒しを示唆する事があれば、全般的なドル買いの流れが強まる公算である。直後の豪ドル/円相場は豪ドル/米ドルとドル/円に挟まれて神経質な展開が予想されるが、その後はドル高が進んで豪ドル/米ドル相場が下落するのか、それとも利上げ出来る程に米経済が回復したとの見方から株価が上昇して円安が進行するのか、どちらの影響がより強く出るのかが豪ドル/円相場を見る上で重要となるだろう。(川畑)

(予想レンジ: 91.200~97.300円)

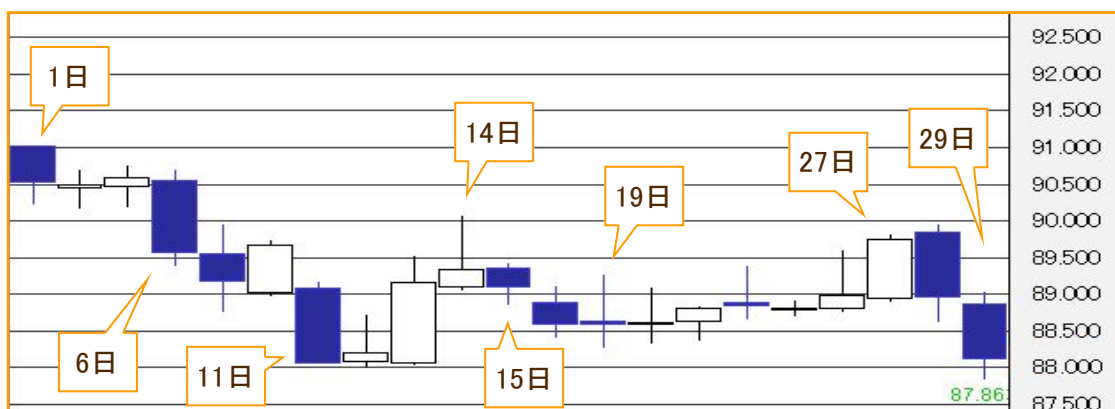
巻頭の特記事項を必ずお読みください。

NZドル/円 5月の推移

NZD / JPY

5月のNZドル/円相場は87.863~91.021円のレンジで推移。月間の終値ベースでは約3.0%の下落(NZドル安・円高)となった。

予想より弱い結果となったNZ経済指標が相次いだ事や、NZ準備銀行(RBNZ)の利下げを予想する金融機関が相次ぎ、RBNZの利下げ観測が徐々に高まっていった事から、NZドル/円は軟調に推移した。豪準備銀行(RBA)の利下げに実施により、これまで下落していた豪ドル/NZドル相場が反発した事も、重石となった。



四本値

OPEN	91.020
HIGH	91.021
LOW	87.863
CLOSE	88.131

1日	イングリッシュNZ財務相が「NZのインフレは非常に長い期間2%を下回っている」「RBNZはインフレ鈍化で金利の見方を変更する可能性」等と発言。ただ、NZドル/円相場の反応は限定的であった。
6日	NZ1-3月期失業率が5.8%と予想(5.5%)より弱い結果となり、民間部門の賃金・時給は前期比+0.3%と前期(+0.5%)と比べ伸びが鈍化。これを受けてNZドル/円が89.499円まで下げた。
11日	ANZ銀行が「RBNZが6月か7月に利下げする可能性」と、ファーストNZキャピタルが「今年RBNZは0.50%利下げの可能性」と、相次いで発表。これを受けNZドル/円は前週8日終値(89.686円)から60銭近く下で始まると、その後88.10円前後まで売られた。
14日	NZ1-3月期小売売上が前期比+2.7%(予想:+1.6%)と2003年9月の統計開始以来最大の伸びを記録。前回分が上方修正(+1.7%→+1.9%)された事も追い風となり、NZドル/円は90.00円台まで上昇した。
15日	NZ乳業大手フォンテラが2015年の乳製品の供給見通しを下方修正した事を嫌気して、NZドル/円は一時88.90円台まで値を下げた。
19日	RBNZが今後2年間のインフレ見通しを1.85%と2月時点(1.80%)から上方修正した事が好感され、NZドル/円は一時89.261円まで上昇した。日経平均が一時的に2万円を回復した事も追い風となった。
27日	フォンテラが2015/16年度期の酪農家からの生乳買取価格について、1Kg当り5.25NZドルと昨年(4.40NZドル)から引き上げた。乳製品価格が今後回復するとの見通しを示した事もあり、NZドル/円は89.808円まで上昇した。
29日	NZ5月企業景況感指数が15.7と前月(30.2)から大幅に低下した。これを受け、市場では早ければ6月にも利下げが実施されるとの観測が浮上し、NZドル/円は下落。ロンドン16時(日本時間24時)のフィキシングに向けてドル買いが優勢となり、NZドル/米ドル相場ではNZドル売りが強まると、NZドル/円は3月以来となる87.863円まで一段安となった。

NZD/JPY

日経平均

OPEN	19510.85
HIGH	20655.33
LOW	19257.85
CLOSE	20563.15

NYダウ平均

OPEN	17859.27
HIGH	18351.36
LOW	17733.12
CLOSE	18010.68

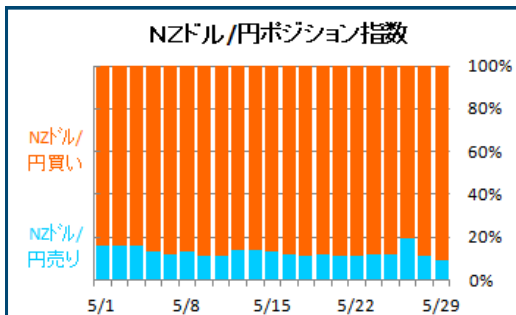
上海総合指数

OPEN	4441.343
HIGH	4986.503
LOW	4099.042
CLOSE	4611.744

NZ10年債利回

OPEN	3.4450%
HIGH	3.8000%
LOW	3.4420%
CLOSE	3.6290%

5月のポジション動向



6月の注目ポイント

[月間指標カレンダー\(外部リンク\)](#)

- ・NZフォンテラ入札(2日、16日)
- ・米5月雇用統計(5日)
- ・RBNZオフィシャル・キャッシュレート(11日)
- ・米FOMC(16~17日)
- ・NZ1-3月期国内総生産(18日)
- ・米5月消費者物価指数(18日)
- ・日銀金融政策決定会合(18~19日)
- ・中国6月HSBC製造業PMI・速報(23日)
- ・NZ5月貿易収支(26日)
- ・主要国株価、国際商品市況

6月の見通し

市場の関心は、11日のRBNZオフィシャル・キャッシュレートに集まっている。現時点での事前予想は金利の据え置きが優勢ではあるが、金利先物市場では0.25%利下げの可能性が50%に達する(1日朝時点)など、足元で利下げ観測も浮上している。仮に利下げが完全に織り込まれない中で実施されると、直後の市場でNZドル売りが強まる可能性が高い。仮に政策金利を据え置いたとしても、声明で将来的な利下げの可能性についての言及がある場合もまた、NZドル売りの材料となりそうだ。前回4月の声明(「金融政策を緩和的に維持すると見込んでおり、現在では政策金利の引き上げを検討していない」「需要が悪化した場合や、賃金、物価がインフレ目標と整合的な水準を下回った場合は利下げが適切になる」と較ベタカ派的は内容とならない限り、NZドルが買われる展開が期待しづらいと見る。今回は政策金利発表と声明の2段構えで対処したい。

NZドル/米ドルについて、RBNZの利下げ観測を織り込む形で先月末に0.70811ドルまで下落して2010年9月以来の安値を記録している。0.70ドルの台を割り込む場面では、NZドル/円相場にも下げ圧力が掛かる可能性が高い。相場水準にも注意したい。(川畑)

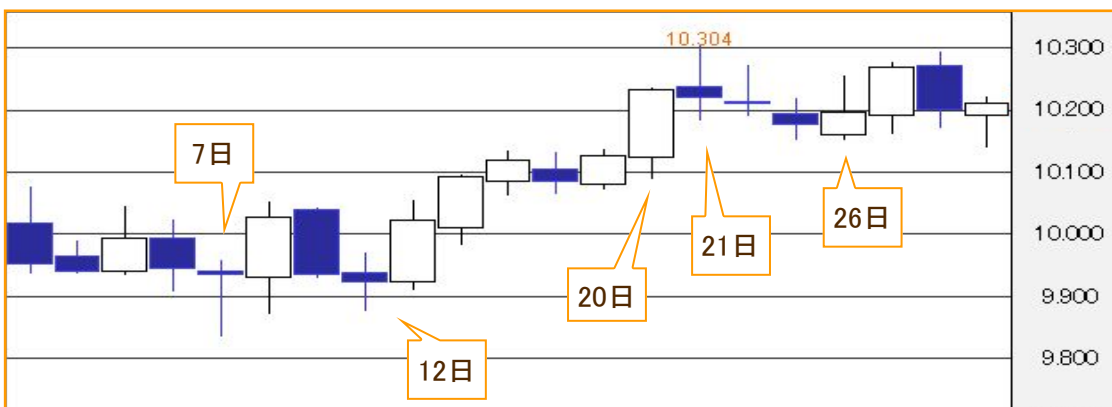
(予想レンジ: 84.800~90.000円)

ランド/円 5月の推移

ZAR/JPY

5月のランド/円相場は9.837～10.304円のレンジで推移。月間の終値ベースでは約2.0%の上昇(ランド高・円安)となった。

ランド/円は月前半は概ね9.90～10.10円でもみ合うも、中旬に入りレンジを上抜けると、21日に南ア準備銀行(SARB)が声明で今後の利上げを示唆した事を受けて2月以来となる10.304円の高値を付けた。なお、月後半以降は米年内利上げ観測の再浮上に伴って全般的にドル高の流れとなるも、ドル/ランド相場での反応は限定的であった。SARBの利上げ観測がランド安・ドル高の流れを阻んだと見られる。



四本値

OPEN	10.020
HIGH	10.304
LOW	9.837
CLOSE	10.213

7日	アジアや欧州での株安を嫌気して、ランド/円は一時9.837円まで下落した。なお、南アのネネ財務相が「2015年のGDP見通しを2%に据え置く」「世界景気の回復遅れや国内の電力不足が経済成長の重石になる」「企業の景況感が低調で、引き続き投資と成長の阻害要因になる」「トウモロコシの収穫量の減少や、電気料金の上昇、通貨安などの影響などから、物価上昇圧力が幾分高まる可能性がある」などと発言したが、ランド/円相場の反応は限定的であった。
12日	格付け会社ムーディーズは南アについて「同国政府の財政再建や債務水準の安定化に向けた取り組みがとん挫した場合、同国の格付けを引き下げる可能性がある」「国内消費者物価の上昇と米国の利上げ観測を背景に、南ア準備銀行(SARB)は景気が低調でも年内に政策金利引き上げを迫られる事態があり得る」等の見解を示したが、ランド/円相場の反応は限定的であった
20日	南ア4月消費者物価は前月比+4.5%と予想(+4.6%)を下回る伸びに留まったが、ランド/円相場の反応はほとんど見られなかった。
21日	SARBのクガニャコ総裁が声明で「インフレ見通しの悪化は、金融政策をいつまでも維持する事はできない状況を示唆」との見方を示すと、ランド/円は一時10.304円まで上昇。しかし、政策金利を5.75%で据え置く事を発表したため反落した。
26日	南ア1-3月期国内総生産(GDP)は前期比年率+1.3%(予想:+1.5%)、失業率が26.4%(同:24.8%)となったが、いずれもランド/円相場の反応は限定的。その後はNYダウ平均の上げ幅拡大に連れて10.256円まで上昇した。

日 経 平 均

OPEN	19510.85
HIGH	20655.33
LOW	19257.85
CLOSE	20563.15

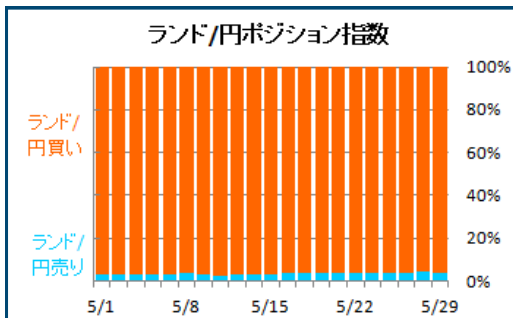
NYダウ平均

OPEN	17859.27
HIGH	18351.36
LOW	17733.12
CLOSE	18010.68

N Y 金

OPEN	1183.70
HIGH	1232.00
LOW	1168.40
CLOSE	1189.40

5月のポジション動向



6月の注目ポイント

- ・米5月雇用統計(5日)
- ・米FOMC(16~17日)
- ・南ア5月消費者物価指数(17日)
- ・南ア4月小売売上高(17日)
- ・南ア1-3月期経常収支(18日)
- ・米5月消費者物価指数(18日)
- ・日銀金融政策決定会合(18~19日)

月間指標カレンダー(外部リンク)

- ・中国6月HSBC製造業PMI・速報(23日)
- ・南ア5月貿易収支(30日)
- ・主要国株価、国際商品市況

6月の見通し

前月のSARB理事会では、声明でクガニャコ総裁が利上げを示唆した事や、政策金利決定の投票で6人のうち2人は利上げを主張していた事が明らかとなり、市場では早ければ次回7月の理事会で利上げに踏み切るとの観測が浮上している。足元の原油相場の持ち直しもあり、同国の消費者物価指数は2カ月連続で伸びが加速。今月も同様の結果となり、SARBのインフレ目標(年3~6%)上限に一段と迫るようだと、利上げを意識してランド/円が買われる可能性がある。

また、今月は格付け会社S&Pとフィッチが同国の格付けを見直す予定となっている。先月ムーディーズは格下げの可能性を示しており、各社がどのような見解を示すかにも注目したい。

テクニカル面では、5月のランド/円相場は3月高値を僅かに突破した事で、今年に入ってから上値目処となっている10.40円レベルが見えてきた。10.437円(2/26高値)を超えると今年の高値更新となり、月足の一目均衡表の雲の上限(10.820円)に向けて上値を伸ばす事も考えられる。(川畑)

(予想レンジ:9.800~10.700円)